わがころもではつゆにぬれつつ	ころもほすてふあまのかぐやま	ながながしよをひとりかもねむ
ふじのたかねにゆきはふりつつ	こゑきくときぞあきはかなしき	しろきをみればよぞふけにける
みかさのやまにいでしつきかも	よをうぢやまとひとはいふなり	わがみよにふるながめせしまに

しるもしらぬもあふさかのせき	ひとにはつげよあまのつりぶね	をとめのすがたしばしとどめむ
こひぞつもりてふちとなりぬる	みだれそめにしわれならなくに	わがころもでにゆきはふりつつ
まつとしきかばいまかへりこむ	からくれなゐにみづくくるとは	ゆめのかよひぢひとめよくらむ

あはでこのよをすぐしてよとや	みをつくしてもあはむとぞおもふ	ありあけのつきをまちいでつるかな
むべやまかぜをあらしといふらむ	わがみひとつのあきにはあらねど	もみぢのにしきかみのまにまに
ひとにしられでくるよしもがな	いまひとたびのみゆきまたなむ	いつみきとてかこひしかるらむ

ひとめもくさもかれぬとおもへば	おきまどはせるしらぎくのはな	あかつきばかりうきものはなし
よしののさとにふれるしらゆき	ながれもあへぬもみぢなりけり	しづこころなくはなのちるらむ
まつもむかしのともならなくに	はなぞむかしのかにほひける	くものいづこにつきやどるらむ

つらぬきとめぬたまぞちりける

ひとのいのちのをしくもあるかな

あまりてなどかひとのこひしき

ものやおもふとひとのとふまで

ひとしれずこそおもひそめしか

すゑのまつやまなみこさじとは

むかしはものをおもはざりけり

ひとをもみをもうらみざらまし

みのいたづらになりぬべきかな

ゆくへもしらぬこひのみちかな	ひとこそみえねあきはきにけり	くだけてものをおもふころかな
ひるはきえつつものをこそおもへ	ながくもがなとおもひけるかな	さしもしらじなもゆるおもひを
なほうらめしきあさぼらけかな	いかにひさしきものとかはしる	けふをかぎりのいのちともがな

なこそながれてなほきこえけれ	いまひとたびのあふこともがな	くもがくれにしよはのつきかな
いでそよひとをわすれやはする	かたぶくまでのつきをみしかな	まだふみもみずあまのはしだて
けふここのへににほひぬるかな	よにあふさかのせきはゆるさじ	ひとづてならでいふよしもがな

あらはれわたるせぜのあじろぎ	こひにくちなむなこそをしけれ	はなよりほかにしるひともなし
かひなくたたむなこそをしけれ	こひしかるべきよはのつきかな	たつたのかはのにしきなりけり
いづこもおなじあきのゆふぐれ	あしのまろやにあきかぜぞふく	かけじやそでのぬれもこそすれ

とやまのかすみたたずもあらなむ	はげしかれとはいのらぬものを	あはれことしのあきもいぬめり
くもゐにまがふおきつしらなみ	われてもすゑにあはむとぞおもふ	いくよねざめぬすまのせきもり
もれいづるつきのかげのさやけさ	みだれてけさはものをこそおもへ	ただありあけのつきぞのこれる

うきにたへぬはなみだなりけり	やまのおくにもしかぞなくなる	うしとみしよぞいまはこひしき
ねやのひまさへつれなかりけり	かこちがほなるわがなみだかな	きりたちのぼるあきのゆふぐれ
みをつくしてやこひわたるべき	しのぶることのよはりもぞする	ぬれにぞぬれしいろはかはらず

ころもかたしきひとりかもねむ	ひとこそしらねかわくまもなし	あまのをぶねのつなでかなしも
ふるさとさむくころもうつなり	わがたつそまにすみぞめのそで	ふりゆくものはわがみなりけり
やくやもしほのみもこがれつつ	みそぎぞなつのしるしなりける	よをおもふゆゑにものおもふみは

なほあまりあるむかし
なりけり